



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会 2013年（平成25年）5月25日号 No. 1595

目次

■ ロシアの最新の地域総生産	1
—さらに広がった地域間格差—	
■ キーパーソン	12
ロシアでプリホチコ副首相兼政府官房長官就任／12	
■ トピックス	12
日立物流のロシア現法、6月に営業開始／12	
北海道銀行とVTB24銀行の協力協定／13	
神栄と応用地質が中央アジア事業で業務提携／13	
第1回日露農業対話開催／13	
NEC、ウクライナに現地法人設立／13	
■ エトセトラ	14
『調査月報』2013年6月号のご案内／14	

ロシアの最新の地域総生産 —さらに広がった地域間格差—

はじめに

ロシア連邦国家統計局は先日、2011年の同国の地域総生産の統計を発表した。地域総生産は国内総生産（GDP）を地域別に（州などのレベル）ブレイクダウンしたもののだが、GDPよりも発表が遅いので、このほどようやく2011年の数字が発表されたというわけである。そこで今回の速報では、この最新データを図表にまとめて紹介することにする。

本『速報』の2012年7月15日号（No.1567）でお伝えしたとおり、2010年に住民1人当たりの地域総生産という指標で、極東のサハリン州が初めてトップに立った。言ってみれば、公式統計上、サハリン州がロシアで最も「豊かな」地域に躍り出たわけである。そして、2011年にも、引き続きサハリン州がトップとなった。全体として、2011年の地域総生産の諸データは、前年のそれから大きな変化はない。ただ、最も「豊かな」サハリン州と、最も「貧しい」イングーシ共和国の格差が、2010年には18.8倍であったのに対し、2011年には19.5倍に広がっている。この尺度で見ると、地域間の格差がさらに広がった形だ。もっとも、地域総生産という指標でロシア諸地域の経済力を測るのには、特有の難しさもある。